

【22_310技術系メルマガ】検証課題の細分化

〇〇さん

こんにちは、クロガキ(クロ)です。

チャート検証というのは、その目的によってやるのが本当に色々あるのですが

ある程度『型』が定まり、一貫性のあるトレードに一步踏み込み始めてから意識することは何か？と問われれば

『課題の細分化』になってくると思います。

▼参考ツイート▼

<https://twitter.com/fxrealtradelive/status/1587978880060575745?s=20&t=WdpHZ79rneCUypp5JcqGtw>

この段階まで来ると、その細分化された課題というものが無数に出てくるので

如何に自分で課題を個別・具体化し、それを検証で潰すかによって、自身の『型』の精度に良くも悪くも影響してきます。

現に、まさに僕自身、その細部を見つけては潰す作業の繰り返しを行っている状態です。

例えば、これは実際に僕自身が疑問に思って検証したのですが

- ・目前にH4や日足のMA(水平線)が接近しているとき、何pipsまで手前なら攻めるべきか？
- ・セットアップ通りのMAタッチでも、M5足のMA収縮が甘い時、それは勝率に影響するのか？

こういった疑問は、そのまま自分自身の検証課題になります。

もちろん、検証母数を集めた結果として

自分なりの答えが見つかるときもあれば、これと言って結論が導き出せなかった事もたくさんあります。

(結論が出なかった場合、それ自体は「不確実性」の括りで当面処理しておく)

トレードルールとしての『型』というのは、あくまでトレードに一貫性を持たせるための基本骨格(フレームワーク)でしかありません。

フレームワークというのは、簡単に言ってしまうと「誰でも理解できるマニュアル」のようなもので

それを見れば、とりあえずその手順に沿った作業を行う事ができます。

例えば僕のトレードの型にしても、特にセットアップの部分だけに注目すれば

『M5-15足のMAが事前に収縮しているのを確認の上、M15/40-50 + M5/100MAタッチが連動するところでエントリーする』

というのがフレームワークです。(ここに上位足の目線も加わりますが)

ですが、実際これだけを丸暗記してトレードしたところで、思うような成果が上がった人は多分いないでしょう。

この骨格をベースに、“自分なりに納得できるタイミング取り、目線固定”をセットにして

初めてこの型は機能するわけです。

フレームワークを基に過去のチャートを確認したり、実際動いているチャートを観察すると

その時に生じる疑問などが色々湧いてくるはずなんです。

その疑問を言語化してノートに書き留め、似たような過去事例をチャートから探し出す。

これが『検証』です。

どこにどんな疑問を持つかは、その人の背景として持っている知識や、性格によっても違うものなので

自分のフィーリングを大事にしながら、自分の考え・小さなクエスチョンに如何にアンテナを張れるかで

成長のスピードは大きく変わってきます。